

給湯器凍結予防及び凍結対策について



給湯器の凍結による破損防止について

◆冬季は暖かい地方でも、給水・給湯配管の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。

こうした事故を防止するために、次のような処置をお取りください。

1. 予防策
2. 給湯器が凍結してしまったら

1. 予防策 その1

給湯栓から水を出す方法

- ① リモコンの運転スイッチを「切」にします。
- ② 浴槽に排水栓をしてからお風呂の給湯栓(お湯の蛇口)を開け、1分間に400ミリリットルの水を浴槽に流しておいてください。

※この場合、浴槽から水が溢れることがあります。

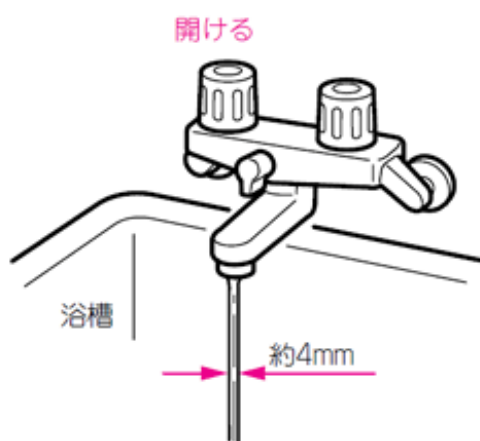
※サーモ付やシングルレバー混合水栓の場合は、設定を最高温度の位置にしてください。

※浴槽の近くに給湯栓がない場合は、シャワーホースを浴槽まで伸ばしてシャワー栓(蛇口)を開いてください。

※シャワーを流す場合は、シャワーヘッドは浴槽につからない位置においてください。

【注意】

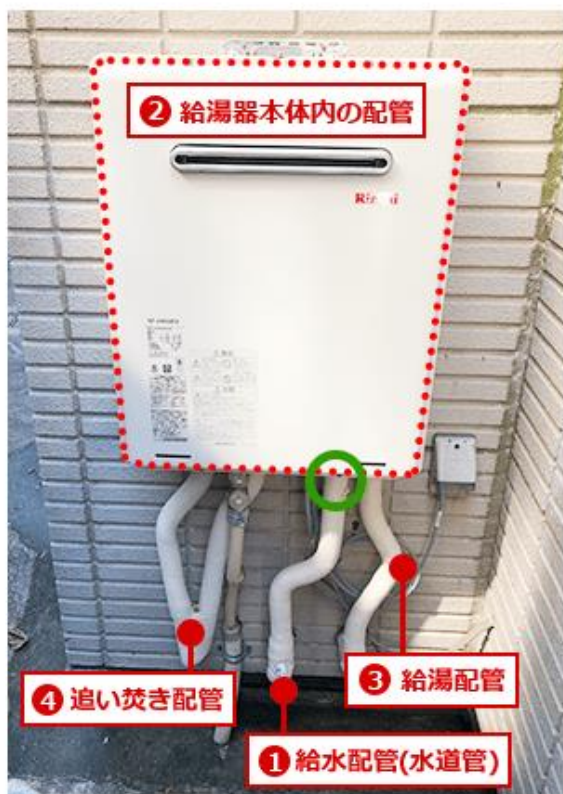
- 量が不安定になる場合がありますので、念の為定期的に水量を確認してください。
- サーモ付き・ワンレバー水栓の場合は、再使用時の設定温度にご注意ください。



1. 予防策 その2

給湯器本体についている、①給水管を断熱材で巻いておく。

※給湯器に、「湯」「水」が記載されています。



2. 給湯器が凍結してしまったら

給湯器からもお湯が出なくなった場合には、給湯器の凍結の可能性があります。

この場合は、

- ◆給湯器のリモコンをOFFにしてください。(※給湯器のコンセントは抜かないでください)
- ◆気温の上昇によって自然解凍するまでお待ちください。
- ◆給湯栓から水が出るようになったら、給湯器やその配管から水漏れしていないかを確認してからご使用ください。

※給湯配管へお湯を直接かけて解凍することは、配管やバルブの破損原因となります。

★下記2点については、凍結対処法として行ってはいけません。★

• 凍結した配管や部品等に熱湯(お湯)をかけて解凍する

熱湯をかけると配管の破損につながります。結果、高額な修理が必要となり、お湯を使えるようになるまでに時間がかかってしまいます。

• ぬるま湯をかけて給水元栓を解凍した場合、ぬるま湯を拭き取らずに

そのまま放置する

給水元栓や配管、保温材にかけたぬるま湯がそのまま残っていると、その水が原因で再び凍結します。ぬるま湯で解凍を行った場合は、必ずすべての水を丁寧に拭き取ってください。

最も推奨できるのは、自然解凍を待つことです。給湯器や配管が故障・破損してしまうと、修理や交換が必要となってしまいますので、時間はかかりますが、自然解凍をお待ちいただくのがおすすめです。

2020年12月28日

株式会社 **アイキューサービス**

休日緊急連絡先 **TEL 06-6921-6111**